

一の宮巡拝



一の宮巡拝会 発行人 塩原 輝昭

〒111-0055 東京都台東区三筋1-12-12第一大津ビル(株)アルプス・タカス内
 電話：03-5823-3901 ファックス：03-3865-2135
<http://ichinomiya-j.com> E-mail: junpai@alpst-net.co.jp

新嘗祭「丹後王国に甦った赤米 古代の稲」

丹後国一の宮 元伊勢籠神社で毎年11月23日に斎行される「古代赤米新嘗大祭」に列席させていただきますと、参列者のみに神授される貴重な古代米で設えられた『十種之神丹穂(とくさのかんにほ)』という稲穂の一束を(ドライフラワー状態である)が神様の撤下として頂く事が出来る。

元伊勢籠神社奉納米として籠神社神饌田・田造長 香山幸生様が心を籠めて生産された物で「丹後王国に甦った赤米 古代の稲 神代の華」として、それは実に尊く栄華な神饌であります。

此処数年、毎年参列させていただきます、一の宮巡拝会代表として玉串奉奠もさせていただきます。

新嘗の祭りなので当然祭典後の直会の席では、神

様と人間との共同作業で育まれた食物が詰め込まれた「膳」を心より感謝しながらいただき、神様からの新しい生命力溢れるエネルギーを充電させていただきました。大変な賑わいの中、祭典が斎行され、祭式に先立ち籠神社神饌田 田造長 香山幸生様により

十種之神丹穂が竹の花瓶挿しに活けられ、日陰鬘(ヒカゲノカズラ)が懸けられて御神前に献上穂されました。大祭なのでオーという警蹕とともに御扉が開かれ厳肅なる祭式が粛々と行われてゆきました。

一時間程の祭典が終

わり、改めて新嘗祭の心、日本の稲作文化伝統の素晴らしさを感じ、感謝の心を蘇らせた時間でした。

一の宮巡拝会 代表世話人 塩原 輝昭



←十種之神丹穂(とくさのかんにほ)
 2束ある左側が神授した物で日陰鬘(ヒカゲノカズラ)が懸けられています。
 右側は田造長 香山様からの物で十種之神丹穂と認められた木札が副えられています。

この後文は、籠神社宮司 海部光彦様のあいつさつから引用させていただきました。

[籠神社の新嘗祭には全国各地から赤米や白米なども奉納されます。

お米を作るのは人間ですが、それを稔らせるには、日(太陽)と月(水)の恵みが必要となります。

月は古来水の徳があるとされ、水は生きてゆくために必要な食料の中で第一番目に挙げられます。

そのため月は、「水を司る神」から「御饌津神」そして「食を司る豊受大神」になぞらえられるようになりました。

日神と月神は二神一座で天上より太陽と水を地上に恵み、人間を始め生きとし生けるものの生命を守護し、

我々に食物を授けて下さっています。].....

入会を希望する方は各事務局へご連絡ください。

一の宮巡拝会 本部事務局

〒111-0055 東京都台東区三筋1-12-12第一大津ビル(株)アルプス・タカス内
 電話：03-5823-3901 ファックス：03-3865-2135
 E-mail: junpai@alpst-net.co.jp

一の宮巡拝会 関西事務局

〒595-0024 大阪府泉大津市池浦町2-8-17 高寺 壽 内
 電話：080-3108-4881 ファックス：0725-22-4040
 E-mail: takaderahachirobe@nike.eonet.ne.jp

入会金・会費等お振込先：郵便振替(大阪)00990-5-81515

<http://ichinomiya-j.com>

